

コミバスと シルバー パス

日本共産党の 先駆的な提案

いま実現に向かっているコミュニティーバス・シルバーパスも日本共産党の先駆的な提案です。



2017年春季号

- 2015年2月** 日本共産党が「安くて便利なコミバスを」の署名活動をスタート
- 2017年7月** 共産党市議団、岐阜市のコミュニティーバスを視察
- 同年7月** 「柏市に100円コミバスを走らせる会」結成
- 同年9月** 「走らせる会」が議会に請願提出。一部を除いて採択
- 2019年8月** 共産党市議団、高齢者が100円で乗れる大阪・堺市の「お出かけ応援バス」を視察
- 同年9月** 共産党は議会で「安くて便利なコミュニティーバス」に加え「高齢者お出かけ応援100円バス」の実現と、「柏駅・市役所間のバスを早急に」と求める
- 2022年2月** 新年度予算に「柏駅から市役所を経由して保健所への路線バスの新規事業」が盛り込まれる
- 同年12月** 柏市、シルバーパス（既存のバス路線を高齢者が割引運賃で乗れる制度）を「今年度中に制度設計を行う」と議会答弁
柏駅・市役所・保健所間のバスは車両が納入され次第実現するところまでできています

日本共産党がめざす子育て支援

4つのゼロ

完全無償化

● 学校給食費ゼロ

憲法は義務教育の無償化を定めており、今こそその責任での無償化に踏み出すべきです。自治体でもさらに負担軽減をすすめます。

● 医療費ゼロ

中学校卒業まで助成・無料化する自治体が95%を超えるまでになりました。国の制度として高校卒業までの医療費助成制度を決断すべきです。

● 健康保険料ゼロ

現在「未就学児のみ半額」の子どもの国民健康保険料（均等割）を廃止します。国と自治体の責任で負担の軽減をすすめます。

● 大学等の入学金ゼロ

大学学費の無償化をめざし、当面、半額にします。日本独自の高すぎる入学金をなくします。返済不要の給付奨学金を抜本的に拡充します。

体育館のエアコン実現へ

中学校の体育館にエアコンが設置されます。日本共産党は普通教室へのエアコン設置が終了するなかで、猛暑の中でも子どもたちが安心して運動や行事が行えるように、また、災害時の避難所になっている体育館の環境を確保するため、国の補助率が10分の7という有利な「緊急防災・減災事業債」を活用してエアコンを設置するよう求めてきました。しかし秋山市政は教室不足対策、校舎の老朽化対策を理由に拒否してきました。子どもの教育を大切にする太田市長は「生徒の快適な学習環境の確保及び災害時の避難所機能の強化として」中学校の体育館にエアコンを設置すると3月議会の施政方針で表明しました。今後、小学校の体育館への設置も検討されます。



ことし4月に開校した田中北小学校の体育館

学校への エアコン 設置

柏市議会

共産党 5議席の 値打ち

子どもの保険料の軽減を要求

日本共産党柏市議団は、高すぎる国民健康保険料の引き下げを求め続けています。国保料が高くなる要因の1つが他の健康保険にはない「1人いくら」の均等割制度があること。柏市の場合1人3万6600円で子どもが3人いれば10万9800円になります。共産党は均等割制度の廃止を求め、「せめて子どもは半額に」と条例提案を行ってきました。全国のこうした運動によって、昨年度から国の制度として未就学児の均等割額が半額になりました。減額の対象年齢の拡大と制度の廃止をさらに求めていきます。

高すぎる 国民健康 保険料



2017年秋季号

柏市は令和5年度の国保料について値上げの可能性を示していましたが、一般会計からの繰り入れを行って保険料率の据え置きを決断しました。これは大きく評価できます。

国政も市政も、いま変えるとき、力を合わせましょう。

パートナーシップ制度を導入

日本共産党は2019年6月議会で、前市長に「個人の尊厳とジェンダー平等のために差別や分断をなくし、誰もが自分らしく生きられる社会のために同性婚を求める声広がっている。`国が認めないのなら自治体で、と渋谷区、世田谷区で始まったパートナーシップ制度を柏市でも導入しよう」と求めました。前市長は、「さまざまな見解があるので、制度の導入については慎重に検討していく」という後ろ向き答弁でした。太田市長が誕生して初めての議会でも制度導入を求め、今年3月から「パートナーシップ・ファミリーシップ制度」が実現しました。

ジェンダー 平等の 社会へ

学校・公共トイレに生理用品を無料で

日本共産党は「ジェンダー平等」を党の綱領に掲げています。コロナ禍のもとで「生理用品が買えない」生理の貧困が大きな問題になりました。柏市でも2021年5月からパレット柏の男女共同参画センターなどで生理用品の無償配布が始まりました。日本共産党は同年6月議会で、小中学校の個室トイレにも生理用品の設置を求めましたが、教育委員会は「社会常識として、自分が使うものは自分が持つてくる。学校に配備するとそれを当てにして大量の消費につながり補充も必要になる」という心無い答弁。その後も連続してこの問題を取り上げ、ついに実現させました。

住民とともに移転・民営化を阻止

老朽化から建て替えが検討されてきた市立柏病院が、4月に基本計画を策定しました。病床数も200床から240床に増えることが決定し、今年度は基本設計に着手します。日本共産党市議団は、住民運動とともに、一貫して公立病院の役割を訴え、早期現地建て替えを求め続けてきました。前市長のもとで一時は移転を決めましたが、医師会の意見や現地建て替えを求める住民の運動で凍結、白紙に戻されました。市立病院は新型コロナへの対応でも、発熱外来や感染者の入院受け入れなど重要な役割を担ってきました。災害医療、感染症対策、障害者医療など、公立病院としての役割の発揮がますます求められています。

市立病院の 建て替え 問題